

狭山市のごみの現状とこれから ごみゼロをめざして

「もったいない！」の言葉が見直されていますが、大量生産・大量消費・大量廃棄の世が続きます。日々の生活から出るごみは、ごみ置き場に出せば市が収集し処理してくれます。しかし、その場から無くなっても、出されたごみを処理するための多くの経費（税金）、ガソリンや電気など資源が使われます。また処理する時にはCO₂や有害ガス、灰などが発生し、環境を悪くしています。市では今年度、「狭山市廃棄物処理基本計画」の5年毎の見直し案がまとめられました。



狭山市第二環境センター

ごみ減量分科会では、市からその内容を聞きました。資源物（プラスチック、生ごみや剪定枝）の回収などは、他市に比べて進

んでいるようですが、多くの解決すべき問題もあります。それらの問題点は以下の通りです。

1. 最終処分場が後2年で閉鎖、今後の見通しが今のところない。
2. 焼却炉は11年経過し、耐用年数が残り5年～10年？ 老朽化による修理費などの増加、新規建設には100億円の巨費がかかる。
3. 17年度のリサイクル率目標値28%以上一実績26.3%、家庭系燃やすごみの目標値463g以下一実績480gと目標値に到達していない。
4. 処理費16億円/年、資源物にかかる経費の増大。（小学校校舎建設費1校7億円相当）
5. 市民の分別が徹底していない。ごみに資源物が大量に混ざっている。

今後これらの問題を解決するために、市民、企業、行政が協働してごみを減らし、子どもたちのために、よりよい環境を残したいものです。（ごみ減量分科会 吉村七郎）



堀兼・上赤坂の森が「緑のトラスト保全第9号地」に決定

この度、堀兼・上赤坂の森が、県指定「緑のトラスト保全第9号地」に決まりました。一昨年の8号地指定の県民投票で、さや環と行政との協働活動の結果、この森が45,000票強の票を得た事。さらに、その後の国、県、議会への働きかけが功を奏したものと理解しております。ご協力有難うございました。購入面積は5～7.5ha、総事業費は、約5億円（県：2/3、市：1/3の負担）となるそうです。詳しくは「広報さやま」をご覧ください。

環境くん

石川しげひさ



各分科会の活動報告

「危うい緑」を「悠久の森」へ

狭山ケーブルテレビの「ちゃっぴいアワー」2月下旬の番組で、特集「さやま環境市民ネットワークレポート」、「危うい緑」を「悠久の森」にして次の世代へ」が放映されました。

はじめに、石田会長から「さやま環境市民ネットワーク」の紹介があり「狭山・武蔵野の雑木林の大切さについて共に考え行動していこう」との、あいさつから始まりました。そのあとを受けて、狭山の雑木林をどう守り、緑の減少をどう食い止めるか等について、次のような報告をしました。

地球規模での温暖化の実態、砂漠化の進行、永久凍土の氷解、海面上昇、さらには今年2月2日に出された気候変動に関する政府閣内パネルの報告の一部などを交え、温暖化に対する緑の効果や、狭山の緑の減少の実態などです。

さやま環境市民ネットワークや、狭山市における市民ボランティアが緑を大切に思い、グリーン活動、森林施業、さらには緑のトラスト地への指定の為に県民投票促進活動などをしてきた状況を紹介しました。

しかしながら、堀兼・上赤坂の森をはじめ、水野の森や狭山市の雑木林では、相続税対策等で売られる森が次々と開発され、緑の減少が急速に進んでいます。昨年、これらの実態を調

査および狭山市議会に訴え、今年、少しずつではありますが、緑の保全に向けた動きが見えてきたようです。



いやしを感じる水野の里山の入り口

番組では、今なお続く危機に対し「狭山市みどりの基金」への寄付を呼びかけ、その浄財で「危うい緑」を買取り、「悠久の森」として次世代にも恩恵が受けられるようにしたい、と結んでいます。

(緑の分科会 小川泰男)

川分科会

●環境講座

「多自然川づくりと美しい河川景観への展開」について

2月25日(日)、中央公民館との共催による環境講座を開催しました。講師の関東地方整備局河川環境課の森田靖則氏より、まず河川環境に関する法の経緯(平成5年環境基本法から平成18年多自然川づくり基本方針発表まで)の内容を詳しく説明を受けました。そして今後は「多自然川づくり」をすべての川づくりの基本とし、その推進のための指針、具体的な内容、及び河川景観の形成と保全の方法等を、参考例をあげて説明されました。

今回の国の方針は非常に心強く

熱心に話される講師の森田氏

感じました。特に川分科会が目指している、まちづくりとの連携を背景とした多自然川づくりの内容と全く一致しているからです。ただ、桑文の中に「市民と行政との協働」という言葉が多いのですが、その協働の内容や、行政の窓口

がどこなのかが気になります。

当日は盛況で、参加者から、不老川・用水路・魚道・湧水等に関する具体的な質疑がありました。

●環境教育支援(入間川小学校)

「入間川の博物館をつくろう」発表会

3月1日(木)、18年度の環境体験授業の発表会が、4年生全員と19年度に予定されている3年生の参加によって開催されました。テーマ別に20

ぐらいのグループがその成果を発表、それぞれ立派な内容でした。特に「入間川の歴史」グループは我々も初めて見る戦前の写真(川



「入間川歴史グループ」の発表

でのスケート、魚採り、水浴、馬の鉄道等)や、かなり高齢のおばあちゃんが記憶していた笹流しの歌の録音などを発掘していて、完全に脱帽でした。

また19年度も始まります。

(川分科会 鈴木英有)

環境講座「毎日省エネ、賢いスマートライフ」

1月21日(日)、中央公民館との共催で、環境講座「毎日省エネ、賢いスマートライフ」を行いました。自治会回覧を見て来られた市民9名を含む参加者33名で、大庭みゆき先生(環境エネルギー研究所長)のお話を熱心に聴くことができました。先生のお話はとても実践的であり、回収したアンケートでは、参加者の殆どが「今日の内容を(その一部でも)実施してみたい」と答えています。



「窓にプチプチを張りましょう」と大庭先生

実施したい項目で最も多かったのは、冬場、窓に「プチプチ」を張る、あるいは垂らすこと

です。冷気による結露防止と室内の熱を逃がさない方策です。講座後すぐに実施した会員によると、それまでと較べ室温が2度は違っていたとのことです。次は冷蔵庫の省エネです。冷蔵庫は、冷気を逃がさないために庫内にカーテンを付ける、熱気を放散させるために置き場所を考え、傍に熱い物を置かない等、参考にされた方が多かったようです。また、前号の記事にあった「緑のカーテン」についても実施希望者が多く、先生の好みでは、水やりと実の処分の容易さから、ゴーヤよりもリュウキュウアサガオが良いとのことでした。他の項目でも、ためになることが多くありました。当たり前に見えることでも「やってみよう」と思わせる、有意義な環境講座でした。

最近、米国のゴア元副大統領の「不都合な真実」、あるいはIPCCの第4次報告等、地球温暖化の話題が多く出ています。これに対し、我々一般市民が果たすべき役割は大きいと思います。会員の皆様も「我慢」でなく「スマート」にライフスタイルを変えてははいかがでしょうか。(温暖化対策分科会 児玉 靖)

映画「不都合な真実」を観ましたか？

地球温暖化をテーマにしたドキュメンタリー映画「不都合な真実」は、アメリカ合衆国の元副大統領「アル・ゴア」さんが、地球の温暖化が進む昨今の問題を熱心に訴える。この映画をまだ観ていない人は、どこかで上映されているならば、ぜひとも観て欲しい。次々と地球で実際に起こっている異常な気候変動による映像と、過去からの変化を示すグラフや、アニメによる説明は圧巻そのもの。誇張し、不安をおおるのではなく、
アラスカのシシュマレフ島は既に沈み始めています



一人ひとりに環境保全の大切さを分かりやすく説明している。温室効果ガス排出大国アメリカおよび、世界をなんとしても変えなければいけないと、一切の政治活動から手を引いて、アメリカ、いや世界中に地球温暖化対策の緊急性を訴えるため、講演に回っている。その熱意が伝わってくる映画であった。石油資本と関わりのある取り巻きで固めたブッシュ大統領は、京都議定書から離脱したが、逆に、ゴアさんは京都議定書をまとめ上げた人でもある。元副大統領だからこそ、これだけ話題になるのかもしれない。しかし、元副大統領だからこそ、環境問題を、地球温暖化問題を、取り上げていることの意義は大きいと思う。

この映画の最後で、一人ひとりがとるべく具体的な行動を提案している事でも、その本気度を強く感じた。(小川泰男)

★我が家の近くに 大型ホームセンターができるらしい。

「便利になってうれしい!」と思う反面、「また林がひとつなくなるんだ…」と悲しくもなる。

便利さは、手間を省き、新たな時間を生み出してくれる。しかし、なくした自然は帰ってこない。あの大量にあった木々は、どこに行ったのだろうか? 「みどりの街・狭山」を、守れるのだろうか? 便利さの裏側で、大切なものが失われているなあ〜。(廣川)

★★★★★★

「平野の森」子どもエコクラブ 全国大会へ

さやま環境市民ネットワーク団体会員メンバー「平野の森」子どもエコクラブが「子どもエコクラブ全国フェスティバル」の代表クラブに選ばれました。「ふれあいの森」で野生生物の観察、調査活動した記録が環境省に評価され、全国の応募クラブの中から上位3クラブの一つに選ばれた事によるものです。2年前の県代表に選ばれたのに続く快挙です。

シリーズ「事業者環境活動紹介」★4 狭山貨物運輸株式会社
**法令をきっちり守り、
 環境への負荷軽減に努めています。**

各地で「雪祭り」が中止されるほど暖冬が続く今年2月、狭山市で運輸業、倉庫業、建設業、レストラン業など、多様な事業を営む狭山貨物運輸株式会社を訪ねました。

同社の運送事業における環境への取り組みについて、今年1月、代表取締役社長に就任されたばかりの野口靖雄さ



野口社長にインタビュー

んは、「運送業を営む事業者としての社会的責任を自覚し、安全対策、法令遵守に真剣に取り組むとともに環境への負荷軽減に努めています」と、まず、NOx・PM法などの環境規制法に同社がきっちり対応していることを強調されました。

これらの規制は、酸性雨などの原因の一つである窒素酸化物、呼吸器への負担や発ガン性も指摘される浮遊粒子状物質等を含む“排気ガス”を規制する条例です。首都圏一都三県や特定地

域内では、エンジン、車両の使用期間などの基準をクリアした車両以外は走行できません。

「100台ほどある自社車両を法の定めたクリーンな車両へと買い換えや軽減装置をつけて対応しました。が、それらにかかるコストを運賃料金にはなかなか転嫁できないんです」と、近年、業者数の増加等により競争が激化している運送業ならではのジレンマも…。しかし、「安全走行、アイドリングストップの徹底、またデジタルタコグラフを導入して、ドライバー一人ひとりに経済性や環境に対する意識を高めてもらい、極力、燃費を抑えています。こうした経済性の追求が、同時に環境負荷の軽減につながると考えています」。

コスト問題を環境問題改善へのステップと捉え、環境改善に真摯に取り組む野口社長。同社が掲げる“現行の10%の燃費改善”の達成も、そう遠い日のことではなさそうです。

(編集委員 山口)



さやま環境市民ネットワーク 総会のご案内

第4回定期総会およびNPO法人設立総会を次の通り行ないます。多数お出かけ下さい。当日新規入会も受け付けます。

- 日時：5月12日(土) 13:30~16:00
- 場所：狭山市役所 6階会議室

新狭山ロータリー・クラブ創立20周年記念『環境講演会』

- 講師：環境文明21 専務理事 藤村コノエ
- テーマ：「地球温暖化」
- 日時：5月27日(日) 14:30~16:00
- 場所：狭山市市民会館 小ホール ● 入場無料

さやまの環境活動のPR (環境月間)

狭山市の環境活動の状況を写真や現物等で紹介します。

- 日時：6月1日(金) 午後から6月15日(金) 午前中まで
- 場所：狭山市役所エントランスホール



昨年5月の総会以降「狭山市みどりの基金」に寄せられた寄付・募金の合計は、平成19年3月15日現在¥3,405,569(内、約¥1,800,000は緑の家庭募金から)です。どうもありがとうございました。今後も引き続き、基金へのご寄付ご協力をお願いします。

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。皆さまのご入会をお待ちしております。

会員数=平成19年1月31日現在(総数205会員) 個人 171名 / 団体 24団体/事業者 10事業者

会員募集

さやま環境市民ネットワーク事務局 (狭山市環境部環境政策課内)

Tel. 04-2953-1111 内線=3671・3672 Fax. 04-2954-6262
 E-mail=kankyo@city.sayama.saitama.jp
 ホームページ=http://kankyosimin-net.sakura.ne.jp/mysite25/

さやま環境市民ネットワークは「チーム・マイナス6%」に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%